

強者の戦略

こんにちは、日本史の岡上です。「東大日本史のみかた」の連載6年目です。よろしくお願いします。今年度も東大の最新問題の解説と、その問題の根底にある「東大が受験生に問いたい（知っておいてもらいたい）日本史」について考えていきたいと思います。

また、昨年度に引き続き、「（日本語としては）よく書けているが、（問題の解答としては）点にならない」解答にならないよう、「点に繋がる解答、合格に繋がる解答を作成するために何が大事なのか」といった観点からもお話ししていきたいと思います。

第19回となる今回は2013年の東大日本史の第1問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、1週間、しっかり問題を考えてみてください。

【2014年度 東京大学 文科前期 第1問】

次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。

- (1) ヤマト政権では、大王が、臣姓・連姓の豪族の中から最も有力なものを大臣・大連に任命し、国政の重要事項の審議には、有力氏族の氏上も大夫（マエツキミ）として加わった。律令制の国政の運営には、こうした伝統を引き継いだ部分もあった。
- (2) 810年、嵯峨天皇は、藤原薬子の変（平城太上天皇の変）に際して太政官組織との連携を重視し、天皇の命令をすみやかに伝えるために、蔵人頭を設けた。蔵人頭や蔵人は、天皇と太政官とをつなぐ重要な役割を果たすことになった。
- (3) 太政大臣藤原基経は、884年、問題のある素行を繰り返す陽成天皇を退位させ、年長で温和な人柄の光孝天皇を擁立した。基経の処置は、多くの貴族層の支持を得ていたと考えられる。
- (4) 10世紀後半以降の摂関期には、摂政・関白が大きな権限を持っていたが、位階の授与や任官の儀式は、天皇・摂関のもとで公卿も参加して行われた。また、任地に赴いた受領は、任期終了後に受領功過定こうかさだめという公卿会議による審査を受けた。

設 問

- A 律令制では、国政はどのように審議されたのか。その構成員に注目して、2行以内で述べなさい。
- B (4)の時期に、国政の審議はどのように行われていたか。太政官や公卿の関与のあり方に注目して、4行以内で述べなさい。